

所謂空梅雨に就て

理學博士 藤原 咲 平

アメリカの方が尙ほいざと思ふが、とにかく、日本の諸新聞に現はれる學術の記事が、(學者の署名の無いものに限り)如何に無茶なものであるかと言ふ事は、一般讀者に知れて居ないやうに思ふ。自分も斯うした問題には始終悩まされてゐる者であるが藤原博士の此の一文を、非常に意味深い内輪話しと思つて讀んだから、ここに紹介する。(山本)

◆長岡博士が昨年歐洲に遊ばれ到る處で歓迎せられた。新聞記者が來て水銀還金に就ての談話を求めた。博士は日本では滅多に新聞記者には應接せられないと思ひます——が向ふではそれ程でもなく、會つて一通り話された記者は筆記を始めたが、逆も本當には解らない事を覺つてもし誤ちを傳へては惡いからさといふので、先生に書いて貰ひたいとお願ひし其書かれた原稿を翌日の新聞に出したといふ事を聞いた。社會の本鐸たるを自覺せらるゝ新聞記者としては苟くも誤謬を傳へる事を恐れるのは當然の事で左もあるべき事と思ふた。然し我日本の現状はどうか。東京には餘りに新聞が多い。各社間で社會欄に於ける競争は記事の正確を犠牲にして只ひたすに他社より、早く早くとさせる。何も讀者が早い事のみを喜ぶのではない然し體裁好きの日本人は、他社が一度出した記事はほそぼろの冷める迄は出さない爲に、記者諸君は自分の取つた記事を廢り物にしたいから、多少不正確の嫌いは有つてもかまはずに出して仕舞ふ。此點に於ては記事の早きを競そはない日本新聞は全然他新聞に勝れて居ると思ふ。

◆記事、誤りでなくて、然も世間を誤る場合が非常に多い。それは見出しである。例へば見出しに『氣象學上の大発見』とあつたとする大方の讀者には此見出しが頭に殘る、所が其記事を讀んで見れば別に大発見でも何でもなく『東風が吹いたら雨になる様』に思はれる』と云ふた様な平々凡々の事も時々ある。是れは記事を取つた記者が見出しを振らない、見出しを振る人は大體目を通して大つかみな、最も人目につき易い様な見出しを付ける爲に見出しと内容とは多くの場合にくひちがう、此爲に世人を誤解に導く事がまた一通りでない。

◆自分は今迄何年となく此種の誤謬に就て苦しめられて來た。然し新聞と云ふものは今の日本では先づ一番強いものであるから、新聞紙に不利な議論や事實を指摘した所で、逆も其れが、世の中に發表せられる機會は得られない。今度は然し『日本新聞』なるものと思ひ切つて痛快に新聞の弱點だらうが何だらうがぐんぐん突つ込んで行くので、自分の多年の考へを發表した機會を得る事と思ふ。

◆恐らく新聞の天氣記事ラザオの天氣放送と兩方聞いたり見たりして比較して下さつたら解る事と考へるが、新聞の社會欄の出る藤原博士談など云ふものに絶へず誤りが現はれる。記者諸君の中にも氣象臺へ出入して一年さか二年さかになる方々ば滅多に間違はれないが、其様な人は三四人であつて、他は新米の諸君や臨時の人達で中には低氣壓が何であるか丸で見當が付かないのに尙氣象臺の記事を取りに來る人すらある其勇氣は感心であるが、其稽古臺にされる小生としては悲鳴を擧げざるを得ない。氣象の本も多少は本屋にも賣つて居る。先づ其れ等に目を通して一應の知識を持つて來られるならば無難であるが我國人は遺憾ながら小説は讀んでも科學の本などは讀まない。殆んど新しく來られる方は大部分低氣壓の何たるかを知られない。

◆相當に心得て來てからにまた誤りが起る。氣象臺では責任を以て發表し得る事を文句に作つて毎日三回づゝ揭示する。此文句は例へば日日新聞なれば必ず欄外の底に出て居る國民新聞ならば天氣圖の上に組む。此文句を見て戴き度い。所が記者諸君の身になつて此様な所謂玄關種では自分の手柄にならない。社では欄外へしか載せない——實は欄外が良いのであるが——本欄へ載せて貰ふには何さか夫れに色を付けなくてはいけない。夫れで

『太陽黒點はどうです』など、質問を發する、こちらは黒點の影響は有るには有るが逆も複雑であつて今の状態が其關係であるかどうか斷言出来ない』など、答へる。すると『假りに影響があるとしたら今年の夏は熱いでせうね』と來るうつつかり引つかうたらそれこそ今年大豊作など、出す『假りになどと云ふ事が解るものではない』と云ふ『夫れでは今年の夏は冷涼でせうか』と來る『其んな事は云へぬ』と斷る冷涼を否定したから熱いと云ふたものと見做して『今年の夏は暑い』藤原博士談と云ふ風なもの出来る。もし藤原談の中に、今年の農作がどうのこうのとあつたらばそれを以て其記事が興太である證據にして戴きたい。私は農作の事には決して觸れませぬ。而も夫がよくちらほら出るから驚くの外はない。後で、私が『困るぢやないか』と云へば『あゝ書かなければ記事に魂が這入りません、あれがスピリット・オブ・ジャーナリズムです』と云はれる。誠に困つたものである。◆今度の空梅雨だつて右の類である。六月の七日氣象臺の發表に於ては『オホーック海方面の溫度がブンブン昇るから今年の梅雨は大して發達はすまい』と出した。此發表に對して或記者は『夫では空梅雨でせうか』と問ふたものもあつた、勿論答へば『其様な事は云へぬ』と云ふのであつた。又『太陽の黒點の影響でせうか』とも聞いた『さう何でもかでも黒點に持つて行けるものでない。太陽黒點の多い年は大陸の夏は溫度は高く冬は寒くなる。夫れだけは明言出来るが、日本は陸と海との中間にあり、陸地性の天候になる事もあり、太平洋性の天候になる事もあり兩方の場合があり非常に複雑であるから、時間が經過した後綿密に調査したらば、或は其關係が見出されるかも知れないが、今直に此梅雨の黒點の因果關係を云々する事は出来ない』と極めて丁寧に説明したものである。其處に居つた人達は大概は了解したらしかつたが、一足後れて來た通信社の人が、私の話を直接には半分しか聞かず、あそこ其處に居つた他の記者にまた聞きをして記事を作つた此人の送つたのがすつかり誤りを傳へて國民新聞などは、いつも特に記者を派遣するのに、運悪く此日に限つて、此通信を其儘載せてしまつた。又中央新聞なども大々的に誤りを傳へた。朝日及日日も少し間違つて出したが後で兩方共丁寧な記事を出して、不言裡に訂正した、初めか

ら正しく出した新聞も多かつた様に思ふ。然し世間では今年は空梅雨だそうなき速断されたのが大多数で、其爲に嘘かほんとか——新聞記事に米の値が騰つたさきへ云はれた。

◆此様な間違ひは今度に限つた事でなくもう年から年中であつて逆もどうする事も出来ない。氣象臺は責任ある發表は文句を以て出して居るから、右の様な記事に對しても決して正誤などはやらない。如何となれば、記者の書いた記事の責は新聞社にあるからである。又わづらはしくて澤山の新聞を逆も一々訂正などやり切れない。

◆只驚いた事には、此様な間違ひが非常に多い事を讀者に知らなくとも新聞記者或は論說記者御自身は十も百も御存知の事と思ふて居つたが六月十五日の日本新聞は其の社として一番大切であるべき論說欄に於て入梅と題し自然科學者が平氣で嘘をつくと云ふて憤慨せられた。茲に於て小生たるものに驚かざるを得ない。評論の評論を出し、十六面棒を出し、眼光紙背に徹するが如き日本新聞の論客各位の中にも案外馬鹿正直の方もあると驚いた次第であるが、人間神様でない以上まあ此位の事は有り勝ちであり、眞面目に考へれば、學者が嘘を付いたか、記者が間違へたかごちらにしても『空入梅説の如實に傳播された事は、明かに日本生活の一弱點である』事に於て小生も大いに論客に共鳴するものである。嘘に對する無懣覺、之れは實に社會墮落の第一歩である、佛國は否巴里少子は輕佻の如くに思ふ人もある。しかも尙其處の記者は誤りを恐れて、自らは長岡博士談を草するを差し控へた。どうか七千萬同胞よ。眞面目になつて戴きたい。新しきを追ひ速きのみ賞ふ輕佻な風を捨て、確實な事實を以て知識の糧とせられたい。浮かれる時には浮かれるも良からうが、我々は今は眞面目とななければならぬ時である。年々利子丈けで一億數千圓の仕拂ひをしなければならぬ我日本は決して浮かれて居るべき時機ではあるまい。(日本六月二十日)

◎

あめつちに

我悲しみと月光と

あまれき秋の夜さなりにけり。

一石 川 啄 木